

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 杵島岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	令和4年1月13日	評価結果市町村受理日	令和4年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひのおか由紀の里の建物周辺は自然に囲まれた住みよい環境です。コロナ禍において入居者および職員の感染予防対策に努めております。また、十分な外出行事などができない中、入居者の方へ楽しみとなるような行事など計画し実施しております。医療面に関しては近隣に協力医療機関があり、普段の健康管理や緊急時の体制など柔軟な対応ができる環境です。また、本人や家族の思いを尊重し主治医と連携しながら看取り介護についても対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員一人ひとりの特技や持ち味を活かし、生き生きと業務あたる姿は入居者の居心地の良さにも繋がっている。双方のユニット管理者は「思いをくみ取る」ことの大切さや帰宅願望についても重要なのは帰宅願望がなくなることよりも「本人の不安な気持ちを軽減する事」「目的は本人に安心してもらう事」などを伝え、共に共有を図りながら業務にあっている。また、コロナを言い訳にせず夏祭りや敬老撮影会、毎月のカフェや厨房の協力によるイベント食、旅行気分や今後の意欲に繋がる旅番組にユーチューブを活用するなどホーム内での楽しみ事を展開している。入居を前にした本人から「私はいつから入るとでしょうか！？今度お世話になる〇〇です！」などと思ひかけぬ挨拶の電話があるなど、この仕事をしていて嬉しい出来事として職員は感謝しており、その思いが日々の支援に繋がっているようである。今後も理念に沿ったケアの実践に大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な日常、笑顔のふれあい、自分らしさを尊重、地域交流を大切に」を基本とした理念をリビング内に掲示し生活支援の指針として実践に繋げている。	ケア会議の中で理念の見直しについて検討した結果、職員の総意として見直しをすることより現在の理念を大切にしていくことが重要として、現行の理念をケアの指針としている。管理者は長引くコロナ禍において家族の役割も担っている部分があるとしており、まずは入居者・家族に安心してもらうことを優先するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、毎年恒例となっている地域行事などもあり、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら継続し地域方々との関係づくりに努めている。	地域の恒例行事となっているどんどやに参加し、書き溜めた入居者の書道の作品などを持って出かけている。館内(地域密着型特養など)行事は全て中止されたが、交流のある保育園児の姿をDVDで観たり、手作りの七夕飾りを差し入れてもらう等、入居者には嬉しい交流が継続されている。また、地域の方からテーブルクロスやひざ掛けなどの手作り品も届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料や広報誌により取り組みや活動、役割についての説明を行っている。又、地元高校の福祉科の実習生を受け入れ認知症ケアの実践や考え方を通して人材育成に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、県内のリスクレベルを考慮しながら運営推進会議の開催を検討している。開催の月には、文書にて活動報告など行っている。	直接開催は出来なかったものの行政への資料送付による書面審議として開催している。年度初回にはホームの概要及び年間計画、苦情相談などについて紹介し、その後の会議では研修や事故、ヒヤリハットなどについてホームの現状を報告している。	資料送付については行政ばかりでなく地域代表者やボランティア団体、家族等のメンバーにも送付することで直接開催に向けた情報発信及び共有の機会として頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者に関する各制度担当者への相談、連携などを通して情報交換や連携が図れるように心掛けている。	通常開催であれば運営推進会議には行政や駐在所、消防関係機関が参加しており、情報交換や意見収集の機会となっている。感染症対策について、行政担当所とのやり取りや、社協に相談事に応じてもらう等良好な関係継続に努めている。介護認定の訪問調査は感染症の状況を見て対応し、場合によっては延期という形をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について年2回以上勉強会を行い、職員の理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	職員は定期的な学習会で身体拘束について、時には動画などを使い認識を深めている。言葉使いについては特に気になるような点は見受けられないとし、馴染みの関係だからこそ言葉選びに注意したり、ニュースなどから事例を出して検討している。センサーマットを使用する入居者家族には説明の後了承を得ており、一時的なものであることも認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行うと共に職員同士で虐待につながらないように話し合い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会や勉強会において成年後見制度について学ぶ機会を確保している。成年後見制度利用者3名おられ日頃の状況などについて、随時、報告、相談など行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に事前説明を行い、わかりやすいように資料を用いて説明している。利用者、家族の聞き取りも行い、納得された上で契約に至っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での相談、面会時に意見を聴取し計画の見直しの際には、アンケートを送付し意見や要望を自由に表せる機会としている。意見や要望は申し送りノートにて周知しケアに反映できるよう努めている。	介護計画作成にあたり、家族には意見や要望を書面にて依頼し、出された内容について周知を図り、支援に反映させている。入居者の「こうしたい、あーしたい」に応え、外出や買い物、食べたいものなどの希望に出来る限り応じている。入居者・家族の意見や要望、相談事を記録するノートには寄せられた感謝の言葉も残されており、職員の励みとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善について意見や提案を前もってつり、月1回の会議時に話し合いを行っている。開設時よりまずはやってみることを基本とし働きやすい職場づくりに努めている。	普段から職員が発言しやすい環境が出来ており、業務改善やケア向上につながる意見については、毎月の会議で検討している。ホームには夜勤専任者が在職しているが、情報を引き継ぎ共有を図りながら使命感を持って入居者支援にあたっている。	外出や地域交流が制限された中で、職員の意見や提案が室内活動の充実や食への取組に表れており、入居者の喜びの表情となって成果がみられている。継続した取組が大いに期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験や能力に応じて各担当業務を設けている。得意分野を活かし役割を持つことでの責任感や、やりがい、意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加や勉強会への参加により新しい知識を得ることでスキルアップやケアの質の向上に努めている。資格取得を目指しての研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインにて法人内の会議に参加、意見交換や交流を行い連携を図っている。法人内の他部署とは日常的に連絡をとり相談やアドバイスをすることもある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し、本人の状態、思いや望むことの把握を行いゆっくり時間をかけて信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安や要望、本人から得られない情報を十分に聞くと共に、事業所の役割や考えを知っていただくことが信頼関係の第一歩であると考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や入居待ちの方々の支援として、今現在の状態やサービス利用状況などから必要とされるサービスを見極め説明やアドバイスをを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の経験や得意なことをふまえ力が発揮できるよう働きかけを行っている。何事も一緒にすることを基本とし関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から何かあれば電話連絡し相談したり、入居者の要望や状況をご家族へお伝えし情報を共有することで共に支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ地域で生活してこられた方や、友人同士であった方もおられ、入居後も関係が途切れないよう考慮しながら支援に努めている。	感染症の状況を見ながら入居者の希望に自宅への帰省が実現している。離職のない職場環境が入居者の日常に安心感をもたらし、同じ地域からの入居やもともとからの知り合いなど、入居後の生活に互いの関係性が途切れないように工夫している。自宅の延長として好きなコーヒーの提供や生け花ができる環境を整え馴染みの生活を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしを安心して過ごしていただく為にも、入居者同士の関わりは大事であり、相性や性格など考慮し関係づくりの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関への転居及び入院になっても新たな環境での生活が円滑に行えるように、その方の状態、情報を伝え法人全体で連携し継続的な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書作成時には、必ず本人の意向など確認し些細なひと言も暮らしへ反映できるように努めている。困難な場合は、生活歴などの情報や日頃から観察し、思いや意向を汲み取り支援している。	感染症対策に室内での過ごし方を工夫し、「今日はどこへいきますか～」と投げかけ、入居者から出た要望に馴染みのある景色をユーチューブで観てもらおう等職員の提案が活かされている。日々の何気ない会話から入居者の思いを引き出し、入浴時の同性介助などに遠慮される場合には、言動や振る舞いから察しながら支援するように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス事業所や医療機関からの情報をふまえて、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の健康維持と、残存機能が維持できるように、その日の体調など各スタッフが把握、共有しできるだけ本人のペースに添った生活ができるような対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や意向を聞き取り、又、ご家族へアンケート送付し意向を伺い計画書に反映させている。また、ケア会議においても話し合い、担当職員、計画作成担当者、その他の従事者と共同で作成している。	入居者の意向を優先し、介護計画について得られた家族アンケートを尊重しながらプランを立案している。入居後も在宅時の楽しみ事の延長として好きなビール(現在はノンアルコール)が引き続き飲める環境や帰宅願望がなくなる事より、不安な気持ちを軽減する事など入居者の気持ちに寄り添った内容を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書にもとづいて、日々の様子、支援経過、気づきなどを個別に記録している。状態変化を共有し評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各制度の申請や手続き、後見人との連携など。入院時の準備、送迎など行っている。看取り時、最後を迎えるにあたっての準備や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出や外部との接触が制限される中、地元の保育園から七夕飾りのプレゼントやDVDにて園児の元気な姿を届けていただく。また、地域のどんどやも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療受けられている。体調に変化があった際には、主治医へ連絡し指示受けもできる。他医療機関の紹介をしていただくなど良好な関係が築けている。	本人・家族の了承のもと協力医による2週間に1度の訪問診療や、必要に応じて歯科・眼科・精神科の診療を支援している。また、皮膚科など職員による受診も行っているが、家族対応についても協力を依頼している。受診前後に家族へ連絡を行い、状態を共有しながら相談事にも応じている。医療面においてもホームの細やかな報告は家族の安心につながっている。	服薬調整で入院された方が退院し、ホームでの一言「もうどこへも行きません！」と発せられたようである。入居者の安堵の気持ちが伝わってくる。かかりつけ医との連携や日々の健康管理により、入居者の健康を支えていただきたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックや状態観察などで特変がある時には、看護師へ相談、状態報告を基本としている。必要に応じ、病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供し、個別のケアなどについても病院スタッフへ伝えることもある。入院中には情報や状態把握の為、連絡し確認を行っている。法人内で勉強会、会議などへ参加、情報共有し関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療、介護の支援について本人家族の意向を確認しながら主治医と連携し対応している。状態に応じては再度意向の確認をしている。	入居時に重度化や看取り支援、特養施設などについての説明を行い、事前指定書を含め同意を得ている。入居当初は看取りより医療機関での対応への希望を望まれるが、状態が変化すれば気持ちも変わるため必要に応じて相談に応じながら確認している。現在、隣接する特養施設の申し込みをされている方もおられる。直近ではぎりぎりまでホームで過ごされた方と、家族、医師、法人栄養課などの協力により1名の方の看取りを支援している。	職員は日々ホームにでき得る最良の支援に努めている。看取り支援後の職員の振り返りや家族から聞かれた気持ちや意見などがあれば、本人を偲ぶ1ページとして記録に残しておくことも検討したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えた勉強会など 行いスタッフの知識や実践力を身につけて 適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や入居者も一緒に参加 の非常食訓練、災害時の食事提供について 勉強会を実施し、もしもの時に備えている。 地域、行政との協力関係も築いている。	今年度の避難訓練は4月、10月に実施し、3 月に予定している。台風接近は予測ができる ことから、発電機の訓練を行ったり、コロナで 栄養課職員が出勤できなかった場合を想定 して食事の提供訓練や断水訓練（紙皿使用 など）も行われている。熊本地震やその後も 地震が発生しており、職員連絡網の確認や 近隣職員は自ら緊急時に備え意識を高く 持っている。	自然災害を含め意識を高く持って対 策に臨んでいることが聞き取りや資料 からも確認された。今後は地域の警 察（駐在所）などの協力を得ながら、 防犯対策としての訓練にも期待した い。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	楽しみの中にも敬意のある接し方、言葉遣 いを心がけている。排泄の確認や誘導の際 には、プライドを傷つけないように配慮した り、入浴では同性介助など本人の要望に 沿った対応をしている。	職員は馴染みの関係性を大切にしながらも、 節度を持って入居者へ対応している。また、 管理者は一人ひとりの思いをくみ取り支援に あたるよう機会あるごとに伝えている。身だし なみやおしゃれについてもその人らしい取組 ができるよう、定期的なカット支援、職員によ る毛染め、また、化粧品や健康サプリ、好み の衣類など家族の協力を得ながら継続して いる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	受容的な対応を心がけ、思いや希望を表し やすいように支援している。日常生活の中 で些細なことでも本人の思いや希望を確認 することを基本としている。又、各担当を配 置することで把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが整うようにホーム内の日課を 取り入れながら、その日の体調に配慮しな がら個々のペースや希望に沿って支援して いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の要望に沿って整髪(髪染め)や衣類の着用など行っている。敬老の日の記念として毎年行っている写真撮影会は楽しみとされており、今年度はドレスを着用されおしゃれを楽しまれた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて家事仕事を役割分担し、楽しみながら出来るように支援している。定期的に嗜好調査の実施や誕生日には希望の食事内容での提供を行い食事が楽しみとなるように努めている。	食事は本体施設厨房で調理され、食形態や朝食にパンの要望、苦手な納豆やトロロへの代替えなど個別の対応に努めている。また、おやつにも工夫を凝らし、“由紀の里カフェ”として月1回和・洋のおやつデザート、数種のドリンクを写真付きメニュー表で紹介し選択してもらっている。馴染みの曲をBGMで流しカフェを楽しむ光景は広報誌でも紹介されている。現在コロナ対策により職員は交代で持参した弁当を食べており、夜勤者2名が同じものを食べ、気づきなどがあれば厨房にあげている。	野菜の皮むきを手伝ってもらった際入居者の一人が「久しぶりに包丁を握った～！家を思い出した～！」と発せられたようである。感染症への対応から入居者が食に関わる機会は少なくなっていると思われるが、今後も個々に応じて出来る出番を支援されることを願いたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調面に配慮しながら、栄養士、看護師と連携し食事内容の見直しを行い美味しく食事が摂れるように支援している。嗜好品など本人の要望に沿った飲み物の提供を行い水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケア用品を使用し、口腔ケア実施。訪問歯科診療時に口腔ケアについて指導・助言を受ける。知識、技術を習得し適切な口腔ケアを行い、清潔保持、口腔内のトラブル防止に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握し個々に応じた時間に声掛けやトイレ誘導を行っている。本人のプライドを傷つけず安全に失禁なくトイレでの排泄ができるよう自立にむけた支援を行っている。	チェック表から把握した時間やパターンをもとに個々に応じた排泄支援を行っている。声掛けや誘導もプライバシーに配慮し、自立の継続や可能な限り失敗の無いように努めている。布パンツやリハビリパンツの使用、パットの併用などを含め、排泄支援については、夜勤専従者とも連携を図りながら取り組んでいることが聞き取りからも確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、排便時間やパターンを把握し便秘にならないよう適度な運動、水分補給、下剤の調整を行い排泄習慣の確立に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に配慮しながら一人ひとりの好まれる時間や同性介助など希望に沿って実施している。冬至にはゆず風呂を楽しんでいただいたり、湯船に入られている間は職員との会話を楽しませている。	午前・午後、本人の好まれる時間や体調に配慮しながら週2回以上入ってもらえるようにしている。入浴は1対1の時間を大切にしており、湯船に浸かって職員との会話も楽しみの一つになるよう心掛け支援している。同性介助については要望や言動、振る舞いから察して対応している。柚子湯を支援する際は、冬至の説明をしたのち実施しておりホームでは、柚子湯週間として楽しんでもらえるよう一週間取り組んでいる。	機械浴を備えたユニットもあり入居者の身体状況に応じて使い分けている。脱衣所や浴室は衛生面とシェーバーの管理など安全面にも配慮した環境を作っている。今後も個々に応じ楽しみとなる入浴支援の継続に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの日課を基本とし個々の生活習慣や要望を取り入れながら生活リズムが整えられるよう支援している。自宅で愛用されていた毛布などを使用することで安心感にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については全職員が把握、理解に努められるように説明書や申し送りノートにて周知状態観察行っている。また、主治医、かかりつけ薬局へ随時相談できる体制ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの経験や身体機能を考慮し家事仕事など役割を持つことで意欲の向上に繋がれるように支援している。楽しみとされている食に関する行事を取り入れ、栄養課協力のもと初めてホーム喫茶も行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や季節を感じることを目的とした行事を計画し実施している。コロナ禍で外出や外部との接触が制限される中、感染対策を行いながら個別にドライブへ出かけられる。	感染対策をしながら敷地内の散歩に限らず、「家に帰りたい！」の要望に、担当職員と一時帰宅やドライブなど個別に対応している。また、開通した阿蘇大橋の車窓ドライブも実現している。外出への希望が出されても支援できない現状の中、職員はユーチューブを使って、旅行番組や名所などを流し、外出気分を味わったり、思い出の旅を思い出してもらっている。広報紙には今後の予定として外出(秋のドライブなど)についても紹介されている。	コロナ禍を言い訳にせず、困難の状況が故に職員が工夫やアイデアを出し合い、室内での楽しみ事やユーチューブを活用している。早い終息を願いながら引き続き旅行雑誌などの活用、敷地内の散歩の継続などに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて所持されており、敷地内の自販機で好みの飲み物を購入するのを楽しみとされている。自己管理が難しい方については、貴重品入れにてお預かりし希望時にはいつでも渡せるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されている方が数名おられ、使い方の説明など行い、いつでも家族と連絡がとれるように支援している。又、コロナ禍で面会ができない中、ご家族とハガキのやり取りをされ、スタッフが間に入り支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような飾り物や植物を飾り、明るく過ごしやすい空間づくりに努めている。本人愛用のクッションやひざ掛けなどを使用しつるげる環境、居場所づくりを心がけている。好まれる音楽などを流したりもしている。	共用空間は清潔を心掛け、リビングホールなどには季節の壁面や飾り物、植物が置かれている。直近では入居者の書初めを掲示し、新たな年を祝っている。食事を含めた席の配置は、相性や身体機能を考慮して決定しており、食後などはお気に入りのクッションやひざ掛けを使用し、テレビや職員との談笑などを楽しまれている。また、BGMにも好みを把握し流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性や相性に配慮しながら、リビング内で過ごされる際には、孤立することなく安心して過ごしていただけるよう支援している。又、同じ趣味を楽しまれる者同士の空間づくりにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に伴い、自宅から家具や愛用の物など取り入れ、自分の住まいと置いていただけよう家族の協力も得ながら居心地よく過ごせる空間づくりを行っている。ご家族の写真など飾られている。	入居説明時に環境が変わるので安心される物を持ち込んで欲しいことを伝えている。感染対策を施し入居初日のみ入室してもらい、家族は部屋の雰囲気、広さなどを確認されている。家族が準備した暖簾の下がった居室は明るく、自室にあった物や、心の拠り所となる家族の写真や遺影、位牌、お孫さんの使用されていた机なども持ち込まれている。昨今は業者に依頼され、家具や収納ケースなどが配達される例もあるようである。居室の管理は現在、各担当職員が整理や家族からの依頼(傷んでいる食べ物の廃棄など)を確認しながら実施している。	田畑に個々まれた環境から雨季の「カエルの鳴き声に眠れない」との要望に、職員は速やかに検討しベッドの位置を変更している。今後も個々にとって居心地よく過ごせる居室環境に努めていかれる事を期待したい。また、面会を控えている家族に代わって、気になる室内状況などを把握し、伝えていくことで安心に繋がると思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所手すりが設置、全館バリアフリーとなっており車いすや歩行器でも安全に移動でき、自立と安全性に配慮した環境となっている。又、トイレの表示などわかりやすいように表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 根子岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	令和4年1月13日	評価結果市町村受理日	令和4年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひのおか由紀の里の建物周辺は自然に囲まれた住みよい環境です。コロナ禍において入居者および職員の感染予防対策に努めております。また、十分な外出行事などができない中、入居者の方へ楽しみとなるような行事など計画し実施しております。医療面に関しては近隣に協力医療機関があり、普段の健康管理や緊急時の体制など柔軟な対応ができる環境です。また、本人や家族の思いを尊重し主治医と連携しながら看取り介護についても対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な日常、笑顔のふれあい、自分らしさを尊重、地域交流を大切に」を基本とした理念をリビング内に掲示し生活支援の指針として実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、毎年恒例となっている地域行事などもあり、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら継続し地域方々との関係づくりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料や広報誌により取り組みや活動、役割についての説明を行っている。又、地元高校の福祉科の実習生を受け入れ認知症ケアの実践や考え方を通して人材育成に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、県内のリスクレベルを考慮しながら運営推進会議の開催を検討している。開催の月には、文書にて活動報告など行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者に関する各制度担当者への相談、連携などを通して情報交換や連携が図れるように心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について年2回以上勉強会を行い、職員の理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行うと共に職員同士で虐待につながらないように話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会や勉強会において成年後見制度について学ぶ機会を確保している。成年後見制度利用者3名おられ日頃の状況などについて、随時、報告、相談など行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に事前説明を行い、わかりやすいように資料を用いて説明している。利用者、家族の聞き取りも行い、納得された上で契約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での相談、面会時に意見を聴取し計画の見直しの際には、アンケートを送付し意見や要望を自由に表せる機会としている。意見や要望は申し送りノートにて周知しケアに反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善について意見や提案を前もってつり、月1回の会議時に話し合いを行っている。開設時よりまずはやってみることを基本とし働きやすい職場づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験や能力に応じて各担当業務を設けている。得意分野を活かし役割を持つことでの責任感や、やりがい、意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加や勉強会への参加により新しい知識を得ることでスキルアップやケアの質の向上に努めている。資格取得を目指しての研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインにて法人内の会議に参加、意見交換や交流を行い連携を図っている。法人内の他部署とは日常的に連絡をとり相談やアドバイスをすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し、本人の状態、思いや望むことの把握を行いゆっくり時間をかけて信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安や要望、本人から得られない情報を十分に聞くと共に、事業所の役割や考えを知っていただくことが信頼関係の第一歩であると考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や入居待ちの方々の支援として、今現在の状態やサービス利用状況などから必要とされるサービスを見極め説明やアドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の経験や得意なことをふまえ力が発揮できるよう働きかけを行っている。何事も一緒にすることを基本とし関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から何かあれば電話連絡し相談したり、入居者の要望や状況をご家族へお伝えし情報を共有することで共に支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ地域で生活してこられた方や、友人同士であった方もおられ、入居後も関係が途切れないよう考慮しながら支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしを安心して過ごしていただく為にも、入居者同士の関わりは大事であり、相性や性格など考慮し関係づくりの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関への転居及び入院になっても新たな環境での生活が円滑に行えるように、その方の状態、情報を伝え法人全体で連携し継続的な支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書作成時には、必ず本人の意向など確認し些細なひと言も暮らしへ反映できるように努めている。困難な場合は、生活歴などの情報や日頃から観察し、思いや意向を汲み取り支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス事業所や医療機関からの情報をふまえて、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の健康維持と、残存機能が維持できるように、その日の体調など各スタッフが把握、共有しできるだけ本人のペースに添った生活ができるような対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や意向を聞き取り、又、ご家族へアンケート送付し意向を伺い計画書に反映させている。また、ケア会議においても話し合い、担当職員、計画作成担当者、その他の従事者と共同で作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書にもとづいて、日々の様子、支援経過、気づきなどを個別に記録している。状態変化を共有し評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各制度の申請や手続き、後見人との連携など。入院時の準備、送迎など行っている。看取り時、最後を迎えるにあたっての準備や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出や外部との接触が制限される中、地元の保育園から七夕飾りのプレゼントやDVDにて園児の元気な姿を届けていただく。また、地域のどんどやも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療受けられている。体調に変化があった際には、主治医へ連絡し指示受けもできる。他医療機関の紹介をしていただくなど良好な関係が築けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックや状態観察などで特変がある時には、看護師へ相談、状態報告を基本としている。必要に応じ、病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供し、個別のケアなどについても病院スタッフへ伝えることもある。入院中には情報や状態把握の為、連絡し確認を行っている。法人内で勉強会、会議などへ参加、情報共有し関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療、介護の支援について本人家族の意向を確認しながら主治医と連携し対応している。状態に応じては再度意向の確認をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えた勉強会など行いスタッフの知識や実践力を身につけて適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や入居者も一緒に参加の非常食訓練、災害時の食事提供について勉強会を実施し、もしもの時に備えている。地域、行政との協力関係も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	楽しみの中にも敬意のある接し方、言葉遣いを心がけている。排泄の確認や誘導の際には、プライドを傷つけないように配慮したり、入浴では同性介助など本人の要望に沿った対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容的な対応を心がけ、思いや希望を表しやすいように支援している。日常生活の中で些細なことでも本人の思いや希望を確認することを基本としている。又、各担当を配置することで把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが整うようにホーム内の日課を取り入れながら、その日の体調に配慮しながら個々のペースや希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の要望に沿って整髪(髪染め)や衣類の着用など行っている。敬老の日の記念として毎年行っている写真撮影会は楽しみとされており、今年度はドレスを着用されおしゃれを楽しまれた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて家事仕事を役割分担し、楽しみながら出来るように支援している。定期的に嗜好調査の実施や誕生月には希望の食事内容での提供を行い食事が楽しみとなるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調面に配慮しながら、栄養士、看護師と連携し食事内容の見直しを行い美味しく食事が摂れるように支援している。嗜好品など本人の要望に沿った飲み物の提供を行い水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケア用品を使用し、口腔ケア実施。訪問歯科診療時に口腔ケアについて指導・助言を受ける。知識、技術を習得し適切な口腔ケアを行い、清潔保持、口腔内のトラブル防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握し個々に応じた時間に声掛けやトイレ誘導を行っている。本人のプライドを傷つけず安全に失禁なくトイレでの排泄ができるよう自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、排便時間やパターンを把握し便秘にならないよう適度な運動、水分補給、下剤の調整を行い排泄習慣の確立に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に配慮しながら一人ひとりの好まれる時間や同性介助など希望に沿って実施している。冬至には必ず風呂を楽しんでいたり、湯船に入られている間は職員との会話を楽しまれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの日課を基本とし個々の生活習慣や要望を取り入れながら生活リズムが整えられるよう支援している。自宅で愛用されていた毛布などを使用することで安心感にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については全職員が把握、理解に努められるように説明書や申し送りノートにて周知状態観察行っている。また、主治医、かかりつけ薬局へ随時相談できる体制ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの経験や身体機能を考慮し家事仕事など役割を持つことで意欲の向上に繋がられるように支援している。楽しみとされている食に関する行事を取り入れ、栄養課協力のもと初めてホーム喫茶も行えた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や季節を感じることを目的とした行事を計画し実施している。コロナ禍で外出や外部との接触が制限される中、感染対策を行いながら個別にドライブへ出かけられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて所持されており、敷地内の自販機で好みの飲み物を購入するのを楽しみとされている。自己管理が難しい方については、貴重品入れにてお預かりし希望時にはいつでも渡せるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されている方が数名おられ、使い方の説明など行い、いつでも家族と連絡がとれるように支援している。又、コロナ渦で面会ができない中、ご家族とハガキのやり取りをされ、スタッフが間に入り支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような飾り物や植物を飾り、明るく過ごしやすい空間づくりに努めている。本人愛用のクッションやひざ掛けなどを使用しくつろげる環境、居場所づくりを心がけている。好まれる音楽などを流したりもしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性や相性に配慮しながら、リビング内で過ごされる際には、孤立することなく安心して過ごしていただけるよう支援している。又、同じ趣味を楽しまれる者同士の空間づくりにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に伴い、自宅から家具や愛用の物など取り入れ、自分の住まいと思っていただけるよう家族の協力も得ながら居心地よく過ごせる空間づくりを行っている。ご家族の写真など飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所手すりが設置、全館バリアフリーとなっており車いすや歩行器でも安全に移動でき、自立と安全性に配慮した環境となっている。又、トイレの表示などわかりやすいように表示している。		